



<大阪発⇒上海着 5泊6日>

「レジェンド・オブ・ザ・シーズ」

2012 ゼミ企画：宮崎・鹿児島・上海クルーズ体験記

大阪大学国際公共政策研究科・赤井ゼミ(2回生 8名:3回生 2名)の初体験

シップデータ

レジェンド・オブ・ザ・シーズ
 総トン数 70,000トン
 乗客定員 1,804人
 乗組員定員 723人
 全長 264M
 全幅 32M
 巡航速度 24ノット
 就航年 1995年

大阪発		スケジュール	入港	出港
1	9月23日(日)	大阪	13:00	20:00
2	9月24日(月)	宮崎(油津):	13:00	20:00
3	9月25日(火)	鹿児島:市役所+市内観光	08:00	18:00
4	9月26日(水)	終日クルージング	-	-
5	9月27日(木)	上海(中国):市内観光フリー	2:30	上海泊
6	9月28日(金)	上海(中国):大学との交流 その後、帰国の途へ	17:00 (CA-163)	20:30 関空着



スケジュール詳細



★1 日目のスケジュール：

14：00～15：00 チェック・イン手続き 終了後乗船（大阪乗船は約100名）
乗船後、buffetで、アフタヌーンティー、その後船内説明会、ディナー

20:00 ごろから、エンターテイメントショー

22:00-24:00 ゼミ旅行初日の WELCOME PARTY（展望ラウンジでカラオケほか）

★2 日目(宮崎)のスケジュール

午前 各自自由行動：卓球大会ほか

13:00 "レジェンド・オブ・ザ・シーズ" 油津港東地区岸壁入港

13:30-14:50 地域概要説明：堀川運河、油津港、日南市中心市街地活性化などのまちづくり、クルーズ船誘致に関する打ち合わせ)

15:00-15:45 堀川運河夢ひろば：堀川運河を歩きながら説明"

16:05-16:50 飲肥城 17:40-18:20 鶴戸神宮

19:00 油津港東地区=>帰船 20:00 出港（花火でお見送り）

★3 日目(鹿児島)のスケジュール：意見交換会＋自主観光

8:00 谷山1区 8号岸壁着岸（レジェンド オブ ザ シーズ）

10:00 官用車ほかにて移動（川崎さん携帯：090-4511-3329）

10:45 鹿児島市役所到着（林さん携帯：080-3769-4669）

10:50-11:45 市役所にて意見交換 以後 学生は、自由に市内観光

18:00 出港 夕食：（フォーマルディナー）

その後、プールデッキでダンスパーティー

★4 日目(海の日)のスケジュール：

各自自由に、ACTIVITYを堪能。プール、ジャグジーほか。

13-15:30 ミキクルーズ・JTB,海事プレス社からの講演、ゼミ論文発表会

18:00 ディナー、ナイトショー後、クルーズ最終日 PARTY！

★5 日目(上海)のスケジュール：

2:30 上海港着岸 朝 9:00 下船

専用バスでホテルへ移動。ホテルで、講演会と議論、中華料理を堪能
ハワード ジョンソン カイダ プラザ 上海（上海財大豪生大酒店）

[Howard Johnson Caida Plaza Shanghai](#)

★6 日目(上海)のスケジュール：

9:00-12:00 上海財経大学の学生とホテルにて交流 大学散策後、食事会

15:00 空港着 17:00 CA-163 で帰国の途。20:30 関空着後、解散

クルーズ体験における感想

乗船時の感想

- 初めに船の中に足を踏み入れたとき、写真では見ていましたが、ホテルのような内装にとっても驚きました。部屋に荷物を置いてすぐにバイキングに行き、そのあとすぐ夜ご飯だとわかっていたのにどれも食べたくなってたくさん食べました。
- クルーズをしてみて、まず驚いたのは内装の豪華さと、料理の美味しさでした。船のなかに入ってから色々な部屋や場所に行ってみただけで、どこも豪華で綺麗で、今までみたこともないような空間でした。巨大なホテルとテーマパークが動いているかの様な凄さで、はじめのうちは圧倒されました。
- 入ってまず、あまりの豪華さに驚きました。高級感の漂うキャビン（部屋）やレストランに、日本のホテルでは見られないカジノやシアターなど、設備が充実しています。加えて、スタッフはほとんど英語なので、日本国内でも船内では海外気分を味わえました。また、簡単な日本語を話すスタッフも多く、英語が苦手でも十分楽しめると思いますし、英語の聞き取りや話す練習もできると思います。
- 大阪港について、まずこれから乗る船の大きさにただただ驚きました。遠くから見た感じホテルかなにかとっていて、それが船だと気づきませんでした。船内はすでに外国のような雰囲気、中央のきらきらした階段を見て「タイタニック号やー」と感動しました。初日から豪華なディナーをいただき、満腹になってからももう出航した気満々で窓の外を見ると まだ大阪の観覧車が見えていたのでびっくりしました。レストランでも英語が話されているので 完全に外国にきた気になっていたようです。
- 高級ホテルのような内装にとっても驚いた。また、言語が英語に切り替わり、日本にいながらもう外国へ来てしまったような気になった。キャビンも十分な広さで、これからここで4日間過ごすと思うとわくわくした。
- 私たちは、乗船後すぐに軽食を食べにカフェに向かった。船内の料理はケーキをはじめすべてフリーであった。これらすべてが食べ放題であるとは信じられないほど種類は豊富で、おいしかった。
- 大阪港で初めてクルーズ船の全容を見たが、とても大きく、ビルのようなようでした。船内もホテルのようで、なんか場違いだなーと感じました。出航するときはわくわくしました。こんな大きな船が動くのかと・・・
- まず、船の大きさに衝撃を受けた。あの船の大きさは今までに見た船の中で圧倒的に一番大きかった。その上、その船に自分が乗るのだからとても信じられないことであった。その驚きは乗船してからも続いた。それは船の内装に対してである。豪華なホテルと見間違える程のものであった。またその豪華さは船全体に行き渡っていた。これは船であると感じさせるような点が外装以外全くなかった。とにかく客を満足させようとした結果なのだろうか、あれだけの内装を船の内部に作る事が可能なことに驚きを受けた。同じような驚きは自分の部屋にもあった。正直、寝る等の最低限の生活が出来るだけの小さな部屋で、二段ベッドなのだろうと想像していた。が、その想像も遥かに上回る部屋であった。本当に船の中なのだろうか？と感じた。

船内サービスの感想(食事・レストランサービス)

- 船内での食事は、雰囲気や、メニューや、もちろん味も、いつでも素晴らしかったです。従業員のサービスもとても充実していて、常に私たちの様子を気にかけてくれていたし、食後にスプーンやフォークを使

ってちょっとしたお楽しみがあったりと、大満足でした。

- 夕食は豪勢で、どれも手が込んだ料理だった。ウェイターは皆気さくで、様々なトリックを見せてくれた。それぞれのトリックに感動したり、驚いたり連続だった。かなり遅い時間までいたが、最後まで私たちを楽しませてくれた。
- レストランは日本語メニューがありました。レストランの席は夜だけ決まっています、毎日同じ人が担当してくれるようでした。私たちのテーブルの担当はトルコ出身の方でした。とてもフレンドリーで、「Thank you very much, ありがとうございます」という風に、話すときにも配慮してくれました。その他にもナプキンでアヒルの作り方を教えてくれるなど、高級レストランの贅沢な食事を楽しみながらも、必要以上に畏まることもなく自然体で過ごすことができました。
- 朝食では、苦手な食材を言うと、それを抜いたオムレツを作ってもらえました。レストランの料理は高級嗜好で、料理だけで十分宿泊費以上の価値があると思います。お酒やスペシャルコーヒーは別料金ですが、紅茶はいくつか種類を選ぶことができました。
- 今日は陸にいる時間が長かったので、夕食はバイキング形式のレストランでいただきました。席が指定されているレストランは、時間も前半後半で指定されていますが、バイキングの方は好きな時間にいくことができます。
- 最終日には、レストランで今までお世話になった担当の方と別れのあいさつをしました。レストランのスタッフが全員で”O sole mio”を歌ってくれました。
- 食事のスピードが早いのに、脂っこいものが多いので、若干胃がもたれてしまいました。さっぱりしたものがもっとあればいいと思いました。
- おめかししてフォーマルディナー！みんなの正装姿がとても新鮮で いっぱい写真を撮りました ^^ で！
- 料理も今までに食べたこともない様な豪華な料理がバイキング、レストラン共にたくさんあって、本当に満足しました。しかも、いくらたべても良い状態だったので、お金を気にせず思う存分に料理を味わえました。思わずいっぱいたべすぎてしまったりしましたが、それもまたとても幸せでした。ウェイターの人の接客もとても丁寧で、たまに面白がらせてくれたりして、いっぱい笑うことができました。ナプキンをつかって動物などをつくってみたりして、お客を楽しませようと頑張ってくださいました。とてもたのしかったです。
- フォーマルナイトでは自分も社交界の一員になったかのような豪華な気分を味わえました。
- レストランに案内してくれる時、丁寧に案内してくれるのだが、鼻歌を歌いながら。しかしこちらは不愉快にならず、たいへんうきうきとしてくるのである。そして席に着くと料理を運びながらも机に笑いを振りまき、積極的に話しかけてくれる。加えて、ナプキン・フォーク等を使って小さなエンターテイメントをしてくれ、楽しませてくれる。
- 朝食はビュッフェ形式で頂いた。軽めにパンとスクランブルエッグにしました。これも、ホテルと変わらないおいしさ。船の上なのにすごいなー。
- 今日はフォーマルナイトです！やはり船内の雰囲気と相まって絵になります。少し胃がもたれてきたかな？と思い、食事は前菜を中心に堪能しました。生ハムメロンっておいしいんですね！！デザートを食べっていると、ウェイターさんがワイングラス、つまようじ、フォークを使って見事なバランス芸を見せてくれました！
- 夕食のときにウェイターさんが冗談を言って、楽しませてくれるサービスはステキです。
- 食事に関してはあのクオリティで全て食べ放題であることに感動した。あれだけの量をほとんど待たせず

に出してくることにまた感動した。あの速さは作り置きでもしているのだろうが、それなら客に提供する量も予想できないので大量の廃棄があるのだろう。ビュッフェでも客の食べ残しも大量に見られたし、より良いものを目指すとその分、食物を無駄にしてしまう部分があるのだろうかと感じた。

船内サービスの感想(エンターテイメント)

- 毎晩ダンスやマジックのショーがあり、生で初めてこういったショーを見ることができたのでよかったです。最終日前夜には、夕食やショーの終わりに、従業員がたくさん出てきて、私たちが快適な時間を過ごすためにこんなにたくさんの人が動いてくれていたんだと感動し、同時にもう終わりなんだと思うと少しさみしくもなりました。
- 今夜のショーはミュージカル(?)で、歌と踊りを楽しみました。イベント担当のスタッフが3人いて、英語、日本語、中国語をそれぞれ通訳してくれました。その他にも、常にどこかでイベントが行われているようです。ホールでは生演奏や社交ダンスを満喫している人たちもいて、人それぞれ好きなように楽しんでいました。
- 夜はバーへ行きました。そこには小さなホールがあり、友人はカラオケを歌っていました。**驚いたのは、そのまわりで踊る人がいることです。スポットライトの光が色とりどりに揺れるなかの多国籍な歌に優雅な社交ダンス、という図は、新鮮で他では見られない光景**でした。
- 夜のショーはマジックショーでした。客もまきこんで盛り上がりました。ただ、後ろの席からは何をしているのか見えにくかったことが残念です。
- キャビンから出ると、吹き抜けの下からジャズの生演奏が聞こえるなど、かなり贅沢な気分が味わえました。
- 夜はマジックショーで、とてもたのしめました。グラスを飲み込んだりひもでつながったり宙吊りから脱出したり 思った以上に本格的で怖かったです。日本語に通訳してくれる人(お名前忘れまして・・・)の話しかたがかわいかったです。
- ダンスパーティーにも参加しました。阪大生っぽくなく(笑)みんなで星空の下で踊ってとても楽しかったです! 久しぶりにあんなに笑いました
- 今夜のショーはフェアウェルショーでした。コメディアンやオーケストラ、ダンサー、歌手が盛り上げてくれました。コメディアンのショーでは、友人が舞台に連れられてショーに参加しました。コメディアンの無茶振りに応える友人の姿に、私たちはもちろん、観客全員が大笑いしました。ショーの最後には、今までショーに出てきた人たちやいつもサービスしてくれたスタッフの人たちが舞台上に上がってあいさつしてくれました。本当に楽しかったです。
- 夜にジャグリングのショーがあり舞台の上に友達がよばれました。そのあとジャグリングと関係ない 意味のわからない動きをさせられた友達を見てみんなで狂ったように笑いました。こんなにおもしろいショーは初めてです。
- 夜のショーも本当にクオリティの高さにびっくりしました。毎晩前とは異なる内容のショーを楽しめ、最終夜にはゼミのなかから友達がショーに参加するという珍事も起こって、観客と一緒に盛り上げるショーとなっていて面白かったです。
- 歌もダンスも一級品で、まるでミュージカルを見ているようだった。
- 映画を上映するシアターや、部屋で自由に映画を見られるような設備があれば個人的にもっと嬉しかった。にしても、シアターでの人々のパフォーマンスは本当に素晴らしかった。クルーズ船に付属したものとは

とても思えなかった。単独公演も行って、お金を取っても良いレベルだと感じた。

船内サービスの感想 (Activity)

- ロッククライミングや卓球やジャグジー、プールなど、遊べる場所もたくさんあってみんなたくさん食べた分体を動かせたと思います。
- もうやる機会なかなかないと思うので 下船後、もう一回くらいロッククライミングに挑戦すればよかったです。真ん中のコースも試してみればよかったかも。朝から夜中まで食べてばかりの船生活だったので もっと運動するべきでした・・・
- アクティビティも充実していて、ロッククライミングやプール、卓球などのおかげで船の上で過ごすのに 退屈を感じず、楽しい日々をすごせました。
- フラダンスを見に行きました。それから、プールサイドでラテンダンスの簡単なレッスンを受けました。社交ダンスよりずっと簡単で、とても楽しかったです。自分で普段わざわざダンススクールに通うこともないので、貴重な経験でした。ほんの 30 分ほどでしたが、一応一曲踊れるようになりました。その音楽は、贅沢なことに、横で生演奏をしてくれていました。レッスンが終わると、ダンスパーティーが始まりました。ラインダンスを教えてもらいながら踊っていると、奥様方と日本人以外の踊りのきれの良さに驚きました。ディスコってこんなだったのかな、と思うと同時に、海外では今でもこんな風に踊っているのかと思うと、これも一つの教養かと、ダンスに興味がわきました。バブル時代を味わって、老若男女国籍問わず星空の下ではしゃぎました。
- ショーの後、プールに入りました。星空の下で入ることはまずないので貴重な体験でした。プールは海水で、少し暖かく、夜でも凍えることなく泳げました。少し泳いだ後、ジャグジーに浸かりました。夜なので他に人もおらず、ゆっくりと湯船で話すことができました。
- 朝ごはんのあとはみんなで卓球をしました。船の上で卓球ができるなんて！ロッククライミングもそうですが 自分的にかなり意外性を感じました。ただ、空振りをしたあとはひたすらボールが転がっていくので拾うのに苦労しました。
- みんなでダンスを踊って、ダンスの楽しさを知りました。今まで踊ったことなどなかったので、ぎこちない感じでしたが、クルーの方がもりあげてくださり、赤井先生も含めみんなノリノリで踊った夜はさいこうでした。
- 朝起きた時も船の旅は充実していました。潮風に吹かれて朝日が昇るのを見ながらランニングをするのは気持ちよかったです。筋トレのマシンもあって、プールもあったので、朝の活動はかなり充実していました。
- 日頃できないことでクルーズならではのものはたくさんあったが、フォーマルナイトはあまりそのような格好をすることのない私にとってとても新鮮で、その服装で食事、そしてダンスをのってやるのは最初は思ってもいなかった。
- 他にも周りでダンスを踊っておられる方々の真ん中でカラオケをした。そこはゆったりとして曲調で社交ダンスをしておられる方が多く、それに合わせてゆったりとした曲調の曲を歌うカラオケとなっていたが、アップダンスのダンスを踊っているフロアを作って、そこでアップテンポのカラオケを出来ると楽しいと思う。(作成者注=>若者が多く乗る海外では、ディスコがはやっているが、日本寄港クルーズでは客層から、ディスコはあまりない。モダンラグジュアリーを推奨するセレブリティークルーズでは、毎晩ディ

スコフィバー。)

- 船の上にあるアクティビティはほぼ全部したのだが、クライミングが初めてでとても楽しかった。世界にあるクルーズ船ではたいへん多くの船の上とは思えないようなアクティビティができるそうでとても驚いた。
- 私が考えたのは、星と陸地が近づいてくるときに見える夜景が大変綺麗だったので、星と夜景が見られるように、双眼鏡・望遠鏡があると便利で楽しみが増えると思う。
- 今回の船より大きいものとなれば、プールに滑り台をつけるとプールが楽しいものとなるのではないか。今回乗った船のプールではなかなか浸かっている以外楽しみを見いだせなかったので、なにか改善の余地があると思う。(作成者注=>カリブの大型船では、滑り台もいっぱいある。)
- 卓球大会で大盛り上がり。また、ロッククライミングにも挑戦しました。十分登りごたえがあります！！運動した後は、プールサイドでお昼寝です。なんて贅沢・・・。
- プールサイドではダンスパーティーが行われていた。なかなか運動する機会がないので、体を動かす貴重なチャンスだった。体育やダンスは生まれたころから苦手だが、この際どうでもよいと思わせてくれるほどの雰囲気があり、私も大いにダンスした。
- プールやロッククライミング、フィットネスやシアターなど、娯楽が飽きる暇もないくらいにあったのは本当に素晴らしかった。
- フォーマルナイトのダンスパーティーに関してはとても非現実というものを感じた。日本では決して体験できないものであったし、今回体験出来なければこれからもダンスに参加しようという意欲も湧かなかったかもしれない。ストレスの発散にはもってこいだし、もっと日本にもダンスが普及してもらいたい。海外のダンス文化がとても羨ましく感じた。

船内サービスの感想(キャビンサービス)

- 部屋の清掃員も、とても愛想がよくて、食事を終えて部屋に入るといつもバスタオルを使って動物を作ってくれているので、今日は何やろう？と、毎晩楽しみにしていました。
- キャビンは出かけている間に掃除をしてくれました。私たちのキャビンの担当の方はわざわざ挨拶に来てくれ、この担当も固定だということでした。昨夜ショーから帰ると、タオルで作った動物が出迎えてくれて驚きました。キャビンでは今日はタオルで作った象が待っていました。ささやかなサプライズに、友人と一緒に喜びました。
- 部屋に帰って 今日タオルは何の動物か確認するのが楽しみになっていました。写真に残そうとしましたがセンスが無いせいで何かよくわからんタオルにしか見えなくて残念でした
- 部屋に帰っても、バスタオルやハンドタオルが動物の形に作られてベッドの上に置いてあり、とても可愛らしい。またその作り方を教えてくれるイベントもあり、笑いのあるもてなしの心を感じられた。スタッフの皆様が話しかけてくれ、(日本ではあまりない、ベッドメイキングのスタッフさんと毎日会話した！！)親切であった。
- 部屋には従業員の方が毎日違う、動物をタオルで作ってくれ、楽しませてもらいました。
- 従業員に対して感じたことは、ホスピタリティーの精神がとても強かった。どの従業員も喋ってみるとお茶目で、素なのかもしれないが常に自分たちを楽しませようとしてくれていた。食事の際付いてくれたスタッフも、ベットメイキング等してくれたスタッフも、本当に喋ると楽しくて大好きであった。日本のホテルの従業員なら少し考えられないことである。海外のホテルの従業員は全員こういった感じなのだろう

か。もし、この裏に会社側の教育があるならば、社員教育が素晴らしく行き渡っていると思う。また従業員に関連すると、彼らがどのような部屋で毎日どのような生活を行っていたかも今になって、とても気になる。基本給はなしで、給料は全てチップというのは本当であろうか。日本との大きな違いを感じた。

船内サービスの感想(その他)

- 船の中では、現金やクレジットカードを出す必要は一切ありません。基本的な宿泊費はあらかじめ払っていますし、乗船時に「シーパスカード」というものが配られて、これがさまざまな役割を果たします。自分のキャビンの鍵や乗船・下船時の身分証明の他、船内の支払い時にもシーパスカードを使用し、最終下船時にまとめて払う仕組みです。ドルでの支払いが不安だったので助かりました。また、有料のサービスと無料のサービスがわかりやすかったので安心して過ごすことができました。
- 今日は、フォーマルディナーの日だったのでみんなドレスアップをしました。私は結婚式に出るときのドレスを着ましたが、おしゃれなワンピースを着ている人もいて、ドレスコードはさほど厳格ではないようでほっとしました。また、普段みることのない友人の正装は新鮮で、面白かったです。カメラマンがホールにいて、並んで写真を撮りました。翌日張り出され、気に入ったものを購入できるそうです。
- テレビではNHKワールドも見れたので日本の情勢がわかってよかったです。
- クルーの方がみんな優しく自分たちを楽しませてくれました。

クルーズ全般への感想

- 船内で、実際にその場所で働く方々に貴重なお話をいただくことができ、質問もできて、とても勉強になりました。当たり前のことですが、クルーズ業界といってもその中で専門誌、旅行代理店などたくさんの仕事があって、どこにおいても常に課題があるのだなあと思いました。そしてその課題の一つとして日本のクルーズ人口が少ないことがあると思うのですが、とても高額なイメージがありますが実際は決して無理な金額ではないし、乗るとすぐに外国気分を味わえるクルーズの楽しさが今後もっと広がってほしいですし、広報次第で実現できると思います。そして自分もまた今度は、もうひとつ大きい船にも乗ってみたいなあと思いました。日本でもこれから周りのたくさんの人に、クルーズの良さを広めたいと思います。
- 「部屋が一緒に移動している」ということの便利さを実感しました。観光地を回るさいに大きな荷物を持ち歩く必要がありませんし、そもそもいちいち荷物をまとめなくてよいので、浴室や洗面台に毎日使う洗顔料などを置いておけます。タオル類も掃除のときに新しいものに交換してもらえます。こういうところが、クルーズならではの良さではないかと感じました。
- 多くのイベントを楽しみつつも、疲れればキャビンに戻って休むことができるという自由度の高さがクルーズの良いところの一つだと思います。私は常に騒がしい遊園地が苦手なのですが、この船旅は、たくさんの新しい経験を得ながらも、ゆったりと過ごして疲れを癒すこともでき、とても快適でした。イベントを選んで参加できるので、体力の有無に関わらず、自分らしく楽しめると思います。
- 全体を通して、本当に得難い経験ができました。一つ一つのアクティビティに満足し、これほどたくさんものを詰め込んだ旅はなかなかないのではないかと感じました。退屈は全く感じる暇はありませんでした。①ずっと部屋と一緒に旅ができること、②自分でイベントを選び取って旅をデザインできるこ

と、数日にわたって同じスタッフさんと接して親しみを覚えられること、③そして異国気分が味わえることなど、他の旅行ではない良さがたくさんあるということがわかりました。ぜひ両親や友人にも味わってほしいと旅の間何度も考えたほどです。

- クルーズというものが思っていたよりも身近なのだと知りました。もっと格式ばったセレブだけのものかと思っていたのですが、気取った感じがなく、みんな心安らかにのんびりと過ごしていると感じました。スタッフさんたちもすごく気さくに声をかけてくれますし、当たり前のことかもしれませんが、学生だから、若者だからといって船員・乗客の誰からも軽んじられることはなく、自然と受け入れられました。
- 予想していた以上にとても楽しかったです。今回参加できなかったイベントもたくさんあったので、またぜひ乗りたいと思いました。今回の旅行で関わった方々への感謝の気持ちでいっぱいです。
- 想像以上の規模ともてなしで、驚きました。4日間では堪能しきれないし、短いなと思いました。ごはんもお酒もおいしいし、ショーにも圧倒されて、素晴らしい環境にいらせてもらっていると感じました。
- 景色も素晴らしく、甲板の椅子に横になって眺める星はとてもきれいでした。
- 朝起きてカーテンを開けるとそこはもう一面海でした！クルーズ始まって！わくわく！
- 早起きをして日の出を見ました！朝早くて寒かったけど太陽が出てくるにつれ暖かくなり、天気も良くて丸い太陽が昇るのがはっきり見ることができてよかったです。海の上での日の出は最高でした。
- この船に乗るまでは正直、ずーっと海の上にいる日は退屈なんじゃないかと思っていたけどとんでもなかったです。貴重なお話を聞かせてもらったり ゼミの発表会もあったり、そのあとにプールやジャグジーにも入り 忙しいくらいでした。
- 私は今回始めてクルーズに乗った。クルーズの良さは、その船に乗った瞬間から雰囲気が変わるところだと思う。お昼過ぎに私たちは乗船し、出航は夕方である。その間まだその場にいるわけだが、船の上は既に日本とは異なる雰囲気を醸し出しており、気分を高揚させた。
- まず、この旅行が始めての海外であった私にとって、船の上のものはほかの人よりも輪をかけて大変新鮮であったわけだが、クルーズだからというものは、そのサービス精神だと感じた。それは日本にいて感じるサービス精神とは少し異なる。日本においてはお客様に快適に過ごしてもらおうととても細やかなサービスが行われる。しかも応対も笑顔だ。だが、クルーズ上で受けたサービスは、とても快適に過ごさせてくれるものであったが、それに加え、エンターテイメント性を感じられ、笑いがあった。
- 停泊した先のことを感じられるように、停泊した日にはその土地の食べ物を船内でも提供できれば、1日では感じきれなかった停泊先のことを存分に感じられ、食事にもバラエティが出ると思う。
- 今回の旅行で感じたのは、クルーズとはそもそも欧米の文化を取り入れたものであり、欧米の人々はその甲板やプールサイト、ホールの椅子に座って何事をするともなくゆったりしているのを楽しむ文化を持っている。今回の船の上では、私はなかなかそういった楽しみ方をするにはできず、次はなに、次はなに、と考えて行動していた。することが少しなくなれば、部屋のベッドで寝ていた。であるから、日本のクルーズ人口を増やすためには、そのまま欧米の文化を取り入れるだけでなく、日本人特有かもしれないずっと動いて何かしらしていきたい性質を鑑みた船のイベント、作りを目指すことも大切ではないかと思う。
- 初めての船上での夜だったので、デッキで星を見ることに。最上階であおむけになって星を眺めていると、ついつい時間を忘れてしまいます。まさに天然のプラネタリウム。都会ではみられない満天の星にすっかり心を奪われてしまい、これから航海中は毎晩星を見に行きました・・・。
- 目の前は一面青い海。「ああ、クルーズに来たんだなあ」と実感
- 船上での生活で、やはり一番感動したのは、雄大な景色です。昼は青い海・青い空、夜は満天の星空。

本当に忘れられない思い出になりました。

- 船酔いもしましたが、全体的にみると、船内の設備は通常のホテルと同じように整っていて、快適に生活できました。
- 日本の若者市場はごく小さいようですが、思ったよりも低価格であり、また、船上での生活は日常をひと時忘れられる素晴らしいものだということを伝えていけば潜在的な需要を掘り起こせるのではないかと感じました。少なくとも私は、もう一度乗ってみたいと思いました。
- 夜の船を散策したくて一人で外にでた。月は水面に白い光を流していた。星が広がる夜空を見た。少し冷たい夜風が気持ちよかった。チェアに横になると、星が一つ流れた。私はすっかり星空にはまってしまっていた。太平洋の中心だともっと数が多いだろう。夜風は少し暖かかった。今日も流れ星を二つ見た。
- 贅沢を濃縮して真空パックに詰めたような日々
- 今回、クルーズ船に乗って、その素晴らしさを十分に享受出来た。今回は割引があったものの、これほどの贅沢が手の届く範囲にあることに喜びを感じた。是非とも、日本にもクルーズ船ブームというものが訪れて欲しい。普及のために思ったこととしては、1つは日本語を喋れるスタッフの増員である。時代とは逆行するが、英語がまったく喋れない人にとってはあの船は少し抵抗があるかもしれない。ポイント、ポイントで、日本人の客には日本語を喋れるスタッフを付ければより良いのではないだろうか。英語で会話するのもこのクルーズ旅行の醍醐味の一つではあるが、2つ目としては、寄港地についてである。今回、結局は寄港地での観光も大いに楽しめたが、やはり若い人にとっては、定番の観光地では寄港地として魅力に欠ける気がする。正直、初めて寄港地を聞いたとき、クルーズ船旅行に対する魅力が半減した。地方活性化を考えると寄港地はこのままの方がいいが、クルーズ船の需要を高めるためには変えたほうがいいのではと感じる。ただ、航海のルートを考慮すると、あまり魅力的な寄港地がないとも感じる。寄港地を見直すのではなく、寄港地の魅力をより広報することも、クルーズ船の利用アップに繋がるのでは。

学生モニターで得られた新しい視点（執筆者：赤井伸郎の感想）

上でも述べられているように、お得感が高いこと、部屋が一緒に動くこと、夜のうちに移動できるなど、クルーズのメリットは、すでにこれまでも伝えてきたが、このたび、学生とともに、クルーズを体験し、以下の新しい視点を得ることができた。

- 駅前留学ならぬ、港前留学：世界の空気がいまここに！

入るとそこはもう別世界、英語の世界、駅前留学とは違って、ここは本物の海外（海外からやってきたものだし、世界中を回っており、世界中の空気が船内にある）。英語の勉強にも最適。

- 星空の下の体験

現在の若者は、ゆっくりと海・星を眺める場所も余裕がない。クルーズでは、毎日、素晴らしい海と、毎晩、素晴らし星空を眺めることができる。

- ダンス・ディスコの体験

海外では、ダンスやディスコは、若者が交流する場として盛んである一方、日本では、あまりなされていない。日本人は、横並びが無難・目立つのは恥ずかしいという意識の下で、自分を前面に押し出す動作は、バブル以後、控えられていると思う。クルーズは、閉鎖空間でともに生活していることを巧みに利用し、そのような隠れた潜在意識を誘い出して、真の人間の楽しさを自覚させてくれる。若者にとっても、素晴らしい場所だと実感した。